

単元名：月と惑星の運動 (中学校第3学年 理科)



ICT活用のねらい

- ・ 1人1台端末を活用してわからない語句の意味を調べたり、月の形を説明したりして考えを深めます。
- ・ カメラ機能で天体モデルを撮影することで月の形を確認します。
- ・ 共有機能を使って、いろいろな考えに触れます。

学習の流れ 6時間（本時6／6）

本時の目標 月の公転と見え方を関連付けて理解し、物語の月の形について説明することができる。

導入	展開	まとめ
<p>①物語から月の形を想像し本時のめあてをたてる。</p> <p>活用ポイント 【表示機能】</p> <p><めあて> 正しい月の形について天体モデルを使って説明しよう。</p> <p>②本時の活動について確認する。</p>	<p>③物語に出てきた言葉について検索機能を使って推察する。</p> <p>活用ポイント 【検索機能】</p> <p>④月の形が三日月でない理由を考え、天体モデルを使って説明する。</p> <p>⑤正しい月の形について天体モデルを使って説明する。</p> <p>活用ポイント 【カメラ機能】</p>	<p>⑥撮影した写真と天体モデルを使って説明を行い、全体で共有する。</p> <p>活用ポイント 【共有機能】</p> <p><評価> 物語の場面のおおよその時刻から太陽と地球、月の位置を推察し、正しい月の形を説明することができる。 【思考・判断・表現】 <まとめ> 真夜中すぎに見える月の形は満月から二十日月ごろの月である。</p>



本時のめあてをたてる。【表示機能】
 <めあて>
 正しい月の形について天体モデルを使って説明しよう。



①

よく知っている物語から月の形を想像することで生徒の関心・意欲UP!!



③

物語に出てきた言葉「シモ月の三日のウシミツ」について検索機能を使って推察する。
 【検索機能】

普段から使っているので検索もサクサク!

月の形が三日月でない理由を考え、天体モデルを使って説明する。
 【カメラ機能】



④

考えがまとまったら、月の形を撮影し考えの共有!!

天体モデルを使っているいろいろな考えを出し合います。



⑥

撮影した写真と天体モデルを使って説明を行い、全体で共有する。
 【共有機能】

<まとめ>
 真夜中すぎに見える月の形は満月から二十日月ごろの月である。

グループで考えた意見を電子黒板に写し全体で話し合います。

伊万里市立青嶺中学校に勤務のスーパーティーチャー館林綾教諭の実践です。小学校のころに学習した物語を取り上げてスライドで提示することで、生徒の興味関心を高め、月の学習への意欲を見事に引き出していました。クラスでは端末活用の普段使いが定着しており、難しい言葉をすぐに検索することや、カメラ機能で撮影した画像ファイルをトリミングなどの加工を行いスライドに貼り付け、クラスやグループで共有することなどがあたり前のようにできていました。1人1台端末をまるで文房具のように普段使いすることによって、子供たちの思考を深めることができる素晴らしい授業でした。